

米国 カリフォルニア州のサクランボは平年並みに

[ASIAFRUIT 2024年4月5日](#)

業界は、昨年は供給過剰が大きな損失を引き起こしたが、今年は「通常の」生産量に戻ると予想

2023年のカリフォルニア州のサクランボのシーズンは、おそらく業界がすぐに忘れてしまいたいようなシーズンであった。例年であれば、シーズン最初の果実は4月下旬に熟し、6月中旬には出荷が終了するはずで、太平洋岸北西部地域からの大量の出荷に道を譲るのに間に合う。しかし、昨年はそうではなかった。

2023年には春の最初の数週間まで冬が食い込んだため、カリフォルニア州の収穫は非常に遅いスタートとなり、収穫量は過去最高に近いものとなった。

7月3日にカリフォルニア州産の最後の果実が出荷される頃までには、太平洋岸北西部の出荷シーズンと大きく重複し、大量の供給が流通経路を圧倒し、市場の収益は前シーズンの半分以下になった。

その悲惨な状況に追い打ちをかけるように、北西部の果実の大部分は6週間の内に成熟し、収穫コストを賄えそうになかったため、多くの生産者は品質の良くない果樹園を放棄することを余儀なくされた。

プリマベラ・マーケティング社のマーク・カルダー氏は出荷シーズンの重複について、「我々にできることはあまりなかった。我々の手には記録的な量の収穫物があり、果実はすでに梱包されていて、行き場が必要であった」と述べた。

カルダー氏によると、ありがたいことに2024年のカリフォルニア州産サクランボの取引は、これとは大きく異なるものになりつつある。今年も雨の多い冬が続いているが、果実の成熟は過去の標準的な実績をたどっており、収穫量も少なくなっている。

同氏は、「今年の出荷シーズンは、より典型的なタイミングである。最も早生の品種の一部は4月25日までに収穫が始まる可能性があり、5月5日までにはサンホアキンバレー地区の南部から一定量が出荷される可能性がある。しかし、北部の地区は、その時点では出荷量が少ないと見込まれる」と述べた。

ステミルトグロウズ果樹園のデイブ・マーチン氏も、昨シーズンに比べてより適当な量になると予想しており、「今年は状況がかなり普通に見える。コーラル品種は5月10日から5月25日の間にピークを迎え、ビング品種は5月25日から6月10日の間にピークを迎えると見られる。ほとんどの業界関係者は、樹上の着果量は良好で、昨シーズンと比較して適当な量の収穫が得られるだろうと思っている」と述べた。

カリフォルニア州の品種

2023年に出荷された1,010万箱(2年前の記録にわずかに6万箱足りない)のうち、コーラル品種は456万箱で最も多い品種であり、ビング品種が230万箱でそれに続いた。

コーラル品種は、降雨後の裂果に対する優れた耐性と、安定した着果の良さにより、過去10年間で、業界を支える礎石として浮上してきた。この品種は非常に用途が広く、数百キロメートルに及ぶ同州のセントラルバレー地域の各地に植えられている。対照的に、ビング品種は引き続き、主にストックトン市とロディ市の周辺の北部の産地に限定されている。

しかし、カルダー氏は、カリフォルニア州の業界としては今でもビングを補完する品種を探していると言い、「コーラルはそれなりに良い品種であるが、ある程度の時間が経つと茎を保持するのが難しくなる。ブラックパール品種は興味深い可能性を秘めている。サイズと色が良く、業界でこの品種の実証が進むにつれて、今後数年間でさらに増えるの見込まれる」と述べた。

しかし、カルダー氏によると、ビングは依然として最も人気があり、同氏は「アジアでは今でも好まれる品種である」と言う。

執筆者: ジェフ・ロング